

内閣府
日常生活におけるバリアフリー化の
実践に関する調査
報告書

平成19年11月

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

目 次

報告書のポイント	1
調査の概要	11
1 調査目的	13
2 調査概要	13
3 回答者属性	16
場面別にみた調査の結果	25
1 駅や鉄道を利用して(問1)	27
2 バスやバス乗り場を利用して(問2)	42
3 街なかで(歩道・道路・信号等)(問3)	56
4 宿泊施設で(旅館・ホテル)(問4)	71
5 商業施設を利用して(スーパー・コンビニ・デパート)(問5)	81
6 各種製品を利用して(電話・携帯電話・メール等)(問6)	92
7 身の回りの日用品を利用して(衣類・食料品・家具・電気ガス機器等)(問7)	102
対象者別にみた調査の結果	115
1 サポート必要者の調査結果	117
2 サポート必要者と健常者の調査結果の比較	130
調査のまとめ	133
1 全体のまとめ	135
2 場面別でのまとめ	136
3 対象者別でのまとめ	138
4 サポート必要者と健常者との違いのまとめ	143
今後に向けて	145
1 バリアフリー化の推進にあたり取り組むべき方策	147
2 調査を終えて(調査手法面からの今後の課題)	149

資料編 調査票(サポート必要者/健常者)

調査の概要

場面別にみた調査の結果

< 図表のみかた >

- 1 面接調査の結果は選択肢にあてはめ、数値化して集計をしている。また各項目（B - 1 欄～B - 4 欄）で個々に挙げられた項目については、（4）面接調査の整理の中で場面別にまとめて記述をしている。
- 2 問1～問7では、困ったことがあった場面（A 欄）には2つまで、最も困ったこと（B - 2 欄）には1つだけ、それ以外の欄にはいくつでも答えていただいた。
- 3 数値化した回答はそれぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記した。
- 4 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに集計表の選択肢、分析軸の表現等は一部省略されているものがある。また棒グラフについては、回答割合の多い順に並べかえている。

対象者別にみた調査の結果

調査のまとめ

今後に向けて

内閣府
日常生活におけるバリアフリー化の
実践に関する調査
報告書

平成 19 年 11 月

発行：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付企画調査担当

〒100-8914 東京都千代田区霞ヶ関 3 - 1 - 1

TEL 03(5253)2111（代表） 内線 44134

調査実施機関：株式会社生活構造研究所

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2 - 5 - 4 第 2 押田ビル

本文は古紙配合率 100%の再生紙を使用しています